

## 審査結果の要旨

氏名 李相蘭

現在、韓国では、授業場面を中心として、無気力傾向を示す青年が増加している。本論文は、日本における青年期アパシー研究との比較を通して、韓国青年の無気力傾向が発生するプロセスを検討するとともに、その現状を把握し、関連要因間の因果モデルを構成することを目的としたものである。

本論文は、5部8章から成り、段階的に研究成果を発展させていく構成となっている。まず第1章では、中途退学者の増加など、韓国の青年をめぐる状況が分析され、韓国における無気力傾向研究の必要性和重要性を指摘している。次に第2章では、日本と米国の青年期アパシー研究の展望を行い、研究の方向を決定している。それを受けて第3章では、日本の大学生と韓国の大学生に対する質問紙調査および面接調査を行っている。その結果から、韓国の大学生の無気力は、日本の大学生とは異なり高校時代の進学動機の不明確性に強い影響を受けていることを明らかにし、高校生を研究対象とすることを決定している。

第4章では、韓国の高校生に無気力傾向に関する質問紙調査を実施し、その中で典型的な無気力傾向を示したインフォーマントを抽出している。第5章では、選定されたインフォーマントに半構造化面接を実施し、収集された質的データをグラウンデッド・セオリーによって分析し、受験競争と親のプレッシャーに因って進学動機の不明確性が生み出され、それが無気力傾向につながるとする無気力傾向の発生に関するモデルを生成している。

第6章では、無気力傾向の他に、進学動機の不明確性、進路未決定、自我同一性に関する質問紙を韓国の高校生に実施し、収集した量的データを用いて共分散構造分析による因果モデルの検討を行っている。その結果、特に男子高校生では、競争的な受験文化を背景とする進学動機の不明確性が進路決定を介し、無気力傾向の下位変数である自己不全感と関連していることを明らかにしている。さらに第7章では、同一の質問紙を日本の高校生に実施し、同様の方法で因果モデルを構成し、両国間の比較研究を行っている。その結果、韓国と日本では、関連要因間でそれぞれ異なる傾向が見られ、特に韓国男子高校生においては、自我同一性の未確立が無気力傾向に強い影響を与えていることを明らかにしている。

最後の第8章では、結果を総合して韓国青年にみられる無気力傾向の特徴をまとめている。本論文は、これまで韓国ではまったく研究されてこなかった青年の無気力傾向を初めて研究対象にしたことに大きな意義がある。また、無気力に関する質問紙を作成し、韓国と日本にわたる幅広い比較調査を実施し、グラウンデッド・セオリーと共分散構造分析といった質的研究法と量的研究法を総合した実証的な研究を行い、進路動機の不明確性が主な要因となっているという、韓国高校生の無気力傾向の特徴を明らかにした点が評価された。よって、本論文は、博士（教育学）の学位を授与するに相応しいものと判断された。